
クレ夫

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クレ夫

【Nコード】

N9066I

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

実在の人物とは何の関係もございません。風刺も何もなし。何となく書いただけ。意味なし。

クレ夫は悲しい男であった。小さい頃に両親を自爆テロで失ってしまったのでずっとストリートで生きてきた。観光客に「なんかくれよ。なんかくれよ」と物乞いするので、いつしか、クレ夫と呼ばれるようになった。本名は、田中こけしだ。

そんなクレ夫も今年で五十。もはやストリートチルドレンではなく、ストリートおっさんだ。

同じく小さい頃に両親にゴミ箱に捨てられたうなぎという女性は、そんなクレ夫が憐れでならない。

もちろん、うなぎというのも通称である。ぬるぬるしてるから、うなぎと呼ばれてるだけだ。どこが、とか聞かないでくれ。これが児童書ということを忘れるな。本名は、山本むしえである。

うなぎは、クレ夫とは対照的に、体一貫でのし上がった。小学生の頃から商売をしている。銀座の一流バーのママになったのは、実に13歳の時だ。

以来、事業を拡大し、六十になった今、年収は、日本の国家予算の三分の二だという。

そんなうなぎが、なぜクレ夫を気にかけているのか？

そんなこと、オレは知らん！

だって、興味ないもの！

ただ、わかっているのは、うなぎはやたらクレ夫をかまうということだけだ。

「ああああ。うなぎ様あ。食べ物を食べ物をおお」

「汚い手で触らないでちょうだい！」

うなぎは、クレ夫の手をはたき、ベンツに乗り去る。

しかし、翌日になると、また、クレ夫のそこへ行く。

「うなぎ様あ。うまぎ様あ。お金を。お金をプリーズ。プリーズ」

「早く死になさい！」

うなぎは、クレ夫の頭を叩き、ベントに乗って去る。
そんなことを何十年も続けている。

なぜ？

だから、知らんて！

本人に聞けよ！！！！

しかし、街の人はクレ夫に優しかった。うなぎ以外はみんな優しかった。空き缶にドッグフード入れてくれたり、魚の骨を入れてくれる。だから、クレ夫は今まで生きてこられた。
なぜだろう？

現在日本はアメリカ力型の競争社会である。ホームレスなど自己責任で死んでいけと罵る風潮がある。

なのに、このクレ夫は、みんなに助けられている。

実は、クレ夫は、悪口屋というのをやっていたのだ。

街頭で、みすばらしいクレ夫が、通行人に「馬鹿。あほ。死んでしまえ」と悪口を言いまくる。

すると、むかついた通行人がクレ夫の方に歩み寄り、「お前こそ死ぬ。ボケ。カス。社会のくず」と罵る。

すると、どうでしょう。通行人の心が晴れ渡るではないですか。雲ひとつない青空のように！

無理もない。現在は極度のいい人社会である。いい人を演じないと社会的にすぐ抹殺されてしまう。だから、自分の悪いところがうまく出せずにストレスが溜まる。

そんなネガティブな感情をクレ夫はいい人たちに吐き出させてあげるので。気持ちよくなるのは当たり前だ。

だから、みんなお礼にりんごの皮や、芋のしっぽをクレ夫にあげるのである。

では、なぜ、うなぎはクレ夫にあげない。

だから、それは知らんってさっきから言ってるだろう！しつこいな
！！！！

しかし、転機が訪れた。みんな、クレ夫に食べ物あげなくなってしまうたのだ。
なぜだ。

理由は簡単である。

クレ夫はみんなに悪口を言われ続け、最初は魚の骨とかもらって喜んでいたが、五十年間も続けているとさすがにストレスになって苦しくなる。

そこで、クレ夫はみんなに好かれようとキャラ変換をし、いい人になろうとしたのだ。

「お嬢ちゃん！きれいだね！食べ物ちょうだい！」

「おっさん！服がっこいいね！食べ物ちょうだい！」

みんなくれるはずもない。だって、クレ夫がそんなだと悪口を言えないじゃないか。楽しくないじゃないか。

そんな裏事情は知らず、クレ夫はボランティアも始めた。どぶさらいや、土手の草刈を黙々と続けたのである。

しかし、ついに、餓死してしまった。

遺体が土手で発見された時、クレ夫の表情は実に笑顔ですがすがしいものであった。

発見した人々は、ここぞとばかりにクレ夫の死体に次々に蹴りをかましたり、腹を破いて小腸を取り出し振り回したり、とにかく、日常のストレスを吐き出した。うっぶんを晴らした。

めでたし、めでたし。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9066i/>

クレ夫

2010年10月10日20時50分発行